

第2章

福岡市がめざす将来像

第2章 福岡市がめざす将来像

1 福岡市総合計画

●「福岡市基本構想」(平成24年12月策定)

○都市像

『住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡』

- 1 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- 2 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- 3 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- 4 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

●「第9次福岡市基本計画」(平成24年12月策定)

○目標年次：平成34年度

○都市経営の基本戦略

- (1) 生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す
- (2) 福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う

○分野別目標

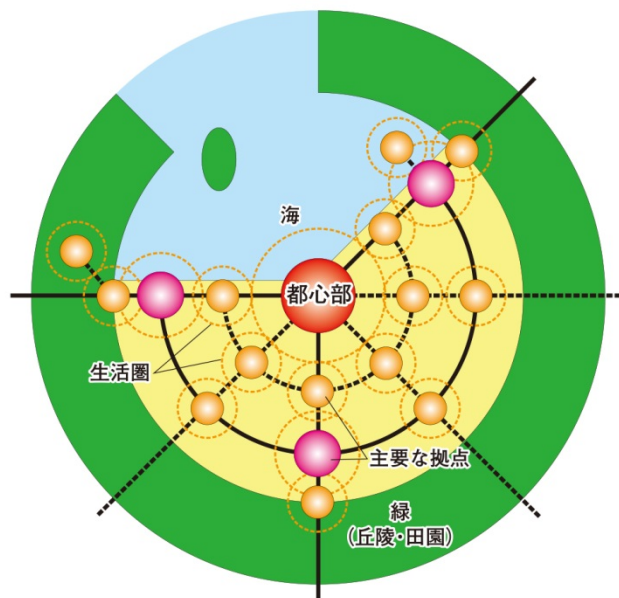
- 1 一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている
- 2 さまざまな支え合いとつながりができている
- 3 安全・安心で良好な生活環境が確保されている
- 4 人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
- 5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
- 6 経済活動が活発でたくさんの働く場が生まれている
- 7 創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している
- 8 国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

○空間構成目標

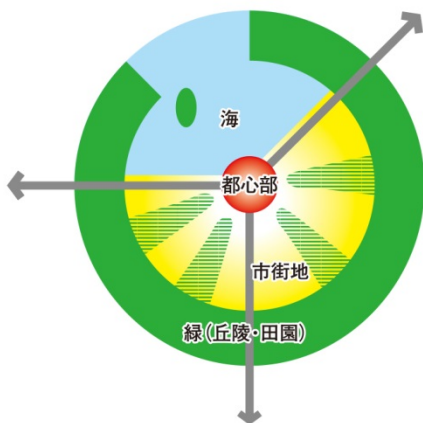
目指す姿

- ・海や山に囲まれた地形的な特徴を生かし、都心部を中心に、まとまりのある空間的にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、安全・安心な暮らしのもと、市民が日常的にそれを享受しています。
- ・福岡市の成長のエンジンである都心部を中心に、都市の成長を推進する活力創造拠点や、市民生活の核となる東部・南部・西部の広域拠点、地域拠点などに、拠点の特性に応じて多様な都市機能が集積し、市民活動の場が提供され、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された「福岡型のコンパクトな都市」が実現しています。

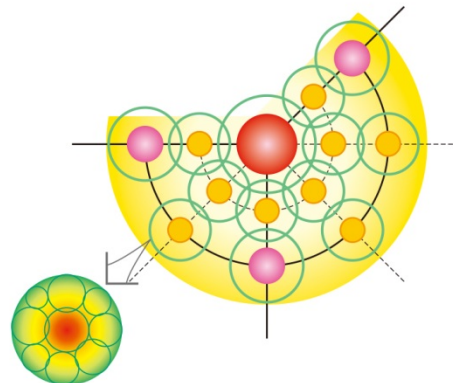
福岡市における「コンパクト」な都市の概念



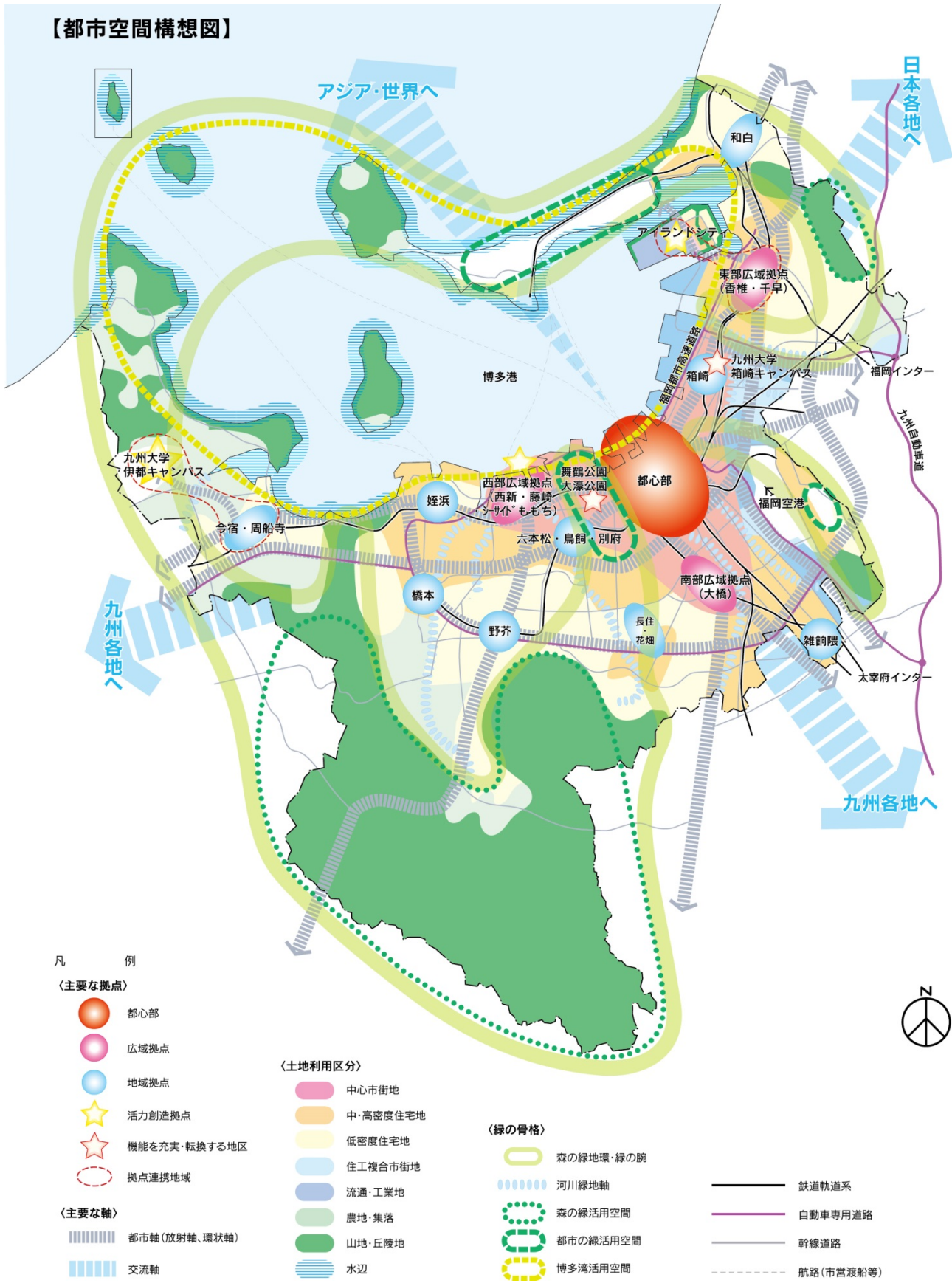
都心部を中心に海や山に囲まれ、空間的にまとまりのあるコンパクトな市街地が形成されている。



都心部や各拠点には、特性に応じて多様な都市機能が集積するとともに、拠点内やその周辺には幾つもの身近な日常生活圏が形成されている。また、拠点間は放射環状型の道路や公共交通機関でネットワークされるとともに、拠点内やその周辺では身近な生活交通が確保されることで、移動の円滑性が確保されている。



【都市空間構想図】



- 凡 例
- 〈主要な拠点〉
- 都心部
 - 広域拠点
 - 地域拠点
 - 活力創造拠点
 - 機能を充実・転換する地区
 - 拠点連携地域
- 〈主要な軸〉
- 都市軸(放射軸、環状軸)
 - 交流軸

- 〈土地利用区分〉
- 中心市街地
 - 中・高密度住宅地
 - 低密度住宅地
 - 住工複合市街地
 - 流通・工業地
 - 農地・集落
 - 山地・丘陵地
 - 水辺

- 〈緑の骨格〉
- 森の緑地環・緑の腕
 - 河川緑地軸
 - 森の緑活用空間
 - 都市の緑活用空間
 - 博多湾活用空間
 - 鉄道軌道系
 - 自動車専用道路
 - 幹線道路
 - 航路(市営渡船等)

《主要な拠点》

都心部	都市活力の中心及び国際交流のゲートウェイとして、国際競争力を備えた、商業・業務、コンベンション、文化、港湾などの高度な都市機能、広域交通機能が集積した地区
東部・南部・西部の広域拠点	交通結節機能の高さを生かし、都市活力を担いつつ、行政区・市域を越えた広範な生活圏域の中心として、商業・業務機能やサービス機能など諸機能が集積した地区
地域拠点	(和白、箱崎、雑餉隈、六本松・鳥飼・別府、長住・花畑、野芥、姪浜、橋本、今宿・周船寺) 区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能やサービス機能など諸機能が集積した地区
活力創造拠点	都市の成長を推進する高度な都市機能が集積した地区 「アイランドシティ」は、環境と共生し、快適な居住環境や新しい産業集積拠点を形成する先進的モデル都市づくりを進めるとともに、アジア・世界とつながる最先端のコンテナターミナルと一体となった国際物流拠点の形成を図る地区 「九州大学伊都キャンパス」及びその周辺は、糸島半島を圏域とする九州大学学術研究都市の核として、学生や研究者などが、新たな知を創造し、発信する、研究開発拠点の形成を図る地区 「シーサイドももち」は、福岡市のリーディング産業である情報関連産業などの拠点形成を図る地区
機能を充実・転換する地区	「舞鶴公園・大濠公園地区」は、緑と歴史・文化が調和した魅力ある空間づくりを行い、集客・交流を強化する地区 「九州大学箱崎キャンパス地区」は、市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学の移転進捗を踏まえ、新たな都市機能の導入などを検討する地区
拠点連携地域	(東部拠点地域(アイランドシティ～東部拠点)、西部拠点地域(九州大学伊都キャンパス～今宿・周船寺)) 拠点間の連携を図りながら、一体的な拠点地域の形成を図る地区

《土地利用区分》

中心市街地	都心部、東部・南部・西部の広域拠点を補完する諸機能をもつゾーン
中・高密度住宅地	中心市街地の外側に広がる中高層住宅を主とし、低層住宅も共存する住宅地
低密度住宅地	中・高密度住宅地の外側に位置する戸建住宅を主とし、豊かな緑に包まれ、身近に自然が楽しめるゆとりのある住宅地
住工複合市街地	空港西側や幹線道路沿いに位置する住宅、流通・工業施設、商業・業務施設など、住む場所と働く場所が複合した市街地
流通・工業地	空港周辺や博多港などに位置する流通施設や工場からなるゾーンで、生産・物流機能を担う地域
農地・集落	農林水産業の振興を図るとともに、緑地空間の保全など、自然や歴史的資源を生かした地域づくりを図るゾーン
山地・丘陵地	市域を取り囲む山や森林などにより緑の骨格が構成され、緑の保全を進めていく地域
水辺	自然海岸や豊かな干潟環境を保全するとともに、市民が身近にふれあえる憩いゾーン

【空間構成目標の実現に向けた交通体系の方向性】

- 都心部を中心に市民生活の核となる拠点をつなぐ都市軸を骨格として、公共交通機関や幹線道路のネットワークの充実・強化を図ります。
- 既存の交通基盤や新たな技術などを生かしながら、鉄道やバスなどの公共交通機関相互の連携や交通結節機能の充実・強化を図り、分かりやすく使いやすい公共交通を主軸として、徒歩や自転車、自家用車などの多様な交通手段が相互に連携した総合交通体系の確立をめざします。

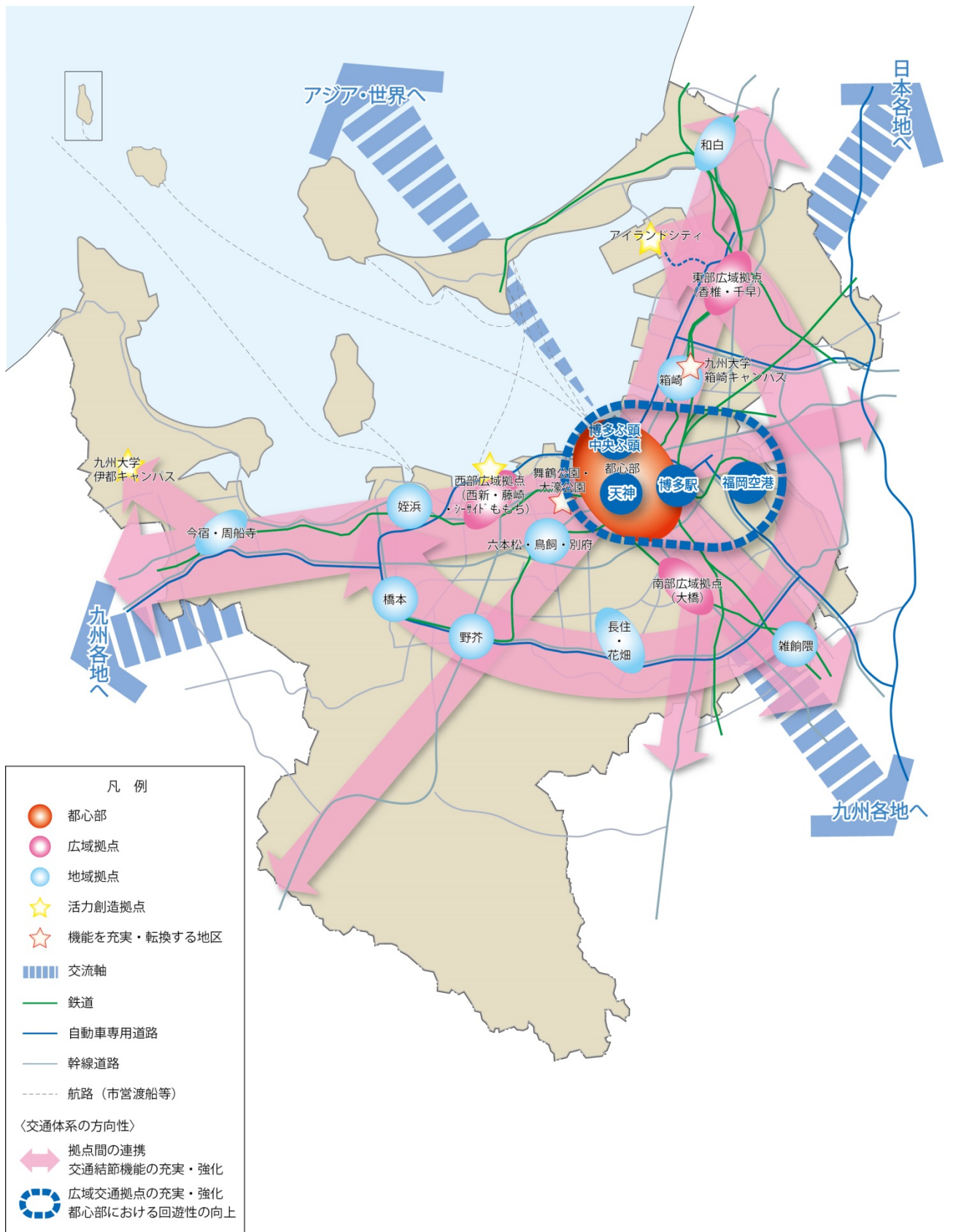
①「都市の成長」を支える交通体系の方向性

- 九州・アジアなどとの広域的な交流を促進するため、陸海空の広域交通拠点の充実・強化や、都心部における回遊性の向上を図ります。
- 公共交通機関の利便性向上や幹線道路の整備などにより都心部・活力創造拠点などへのアクセスの強化を図ります。

②「質の高い生活」を支える交通体系の方向性

- 快適で生活しやすい居住環境を形成するため、市民生活の核となる拠点へのアクセスの強化を図るとともに、福岡市、市民、公共交通事業者などの協力と連携のもと、日常生活を支える生活交通の確保を図ります。

第2章 福岡市がめざす将来像



2 福岡市都市計画マスタープラン

【地域別構想 “都心部編”】

①都心部の中核部である天神・渡辺通、博多駅周辺の機能強化

- ・九州最大の商業・業務機能が集積する天神・渡辺通と博多駅周辺は、公共交通のターミナルを中心とした都心部の中核部として、集客力の高い機能を配置し、都心部の機能強化を図ります。
- ・個性や界限性が魅力の天神周辺部や博多駅周辺部は、中核部の機能を補完し、連携することにより相乗効果を高めます。

②海に開かれたアジアへの玄関口となる博多ふ頭・中央ふ頭の機能強化

- ・博多ふ頭・中央ふ頭において、外国からの入国者数が日本一の港にふさわしいゲートウェイ機能の充実・強化とおもてなしの景観づくりを図るとともに、コンベンションなどのMICE機能を強化し、多くの人が集い交流する海に開かれたアジアへの玄関口づくりを進めます。
- ・クルーズの振興を図ることにより、博多港をクルーズ客船が発着する拠点港として機能させ、来訪者の増加や港の活性化を推進します。

③都心主軸を骨格とし、各地区が一体となった都心部の機能強化

- ・天神・渡辺通、博多駅周辺、博多ふ頭・中央ふ頭を結び、高度な都市機能が沿道に集積する都心主軸を骨格とし、公共交通軸の強化により地区間相互の連携を高めるとともに、陸・海・空の広域交通拠点との近接性を生かしながら、3地区を一体として都心部の機能強化を進めます。

④核や拠点を結ぶ都心部回遊軸の強化

- ・歩道空間の高質化や沿道への商業施設などの誘導、魅力ある景観形成などにより歩行者の回遊性向上を図り、美しい街並みや緑を楽しみながら、一年を通して多くの人を訪れにぎわう都心部づくりを進めます。

⑤個性を生かした拠点の機能強化と、住み続けられる都心部づくり

- ・博多の歴史を伝える御供所・冷泉、文化・商業に加え多彩な飲食・娯楽が魅力の中洲川端、業務機能が集積し、交通の結節点でもある渡辺通など、それぞれの地区の個性を生かしたまちづくりを進めます。
- ・子どもの教育環境の向上や、ファミリー世帯の都心居住の誘導・支援などを行い、住み続けられる都心部づくりを進めます。

■都心部の将来の都市構造

